

二〇一一年度 外国学生入学試験問題 (日本語・小論文)

早稲田大学社会科学部

解答はすべて解答用紙の所定欄に記入すること。

次の文章を読んで、あとの問に答えなさい。

子どもたちの創造力や発想力を伸ばすことが必要であると言われる。これからの新しい時代を生き抜いてゆくためには、豊かな発想力を身につけるべきだということには誰しも異論のないことである。子どもの教育ということに関しては、わが国は極めて熱心であり、教育環境も従前に比して著しくよく整ってきたと思われる。しかし、よく考えてみると、子どもの創造力を伸ばすという点で、現在の教育環境は必ずしも望ましいものとは言い難いようである。

小学校の算数の問題で、「私の町から隣町へ行くのに、毎時四キロの速さで歩いてゆくと……」と言う類の問題がある。ところで、A君は先生の解答を聞いていて不思議でならない。隣町までゆくのは、右に左に曲がってゆかねばならないのに、先生が黒板に私の町から隣町へと一本の直線を引いて説明するのが、A君にはどうも納得できないのである。そこで、A君は思い切ってそのことを言ってみると、「馬鹿げたこと」と先生のみならず同級生たちにも一笑に付されてしまった。

ところで、よく考えてみると、A君の疑問は数学的に言っても非常に面白いことだ。掘り下げて考えてゆくならば、このことは「直線とは何か」「距離とは何か」などについて、その本質を考えさせてくれるものである。このような疑問をもつA君の方が彼を笑いものにした人よりも「数学的」だと言えるだろう。ところが、彼は数学でよい点は取れないし、先生は彼を数学の劣等生と誤ってしまう。そして、数学のできる子が「よい子」、できない子が「悪い子」という図式に当てはめると、A君は悪い子になってしまふのである。

この例から考えられるように、新しい発想や創造性というものは、既存のシステムとは相容れぬものである。既存のシステムに固執するかぎり、それに悪とか誤りとかの烙印ちやくいんを押されてしまうことが多い。現在の学校教育において「できるだけ早く正解を見いだすこと」を善として、子どもが鍛えられれば鍛えられるほど、子どもは新しい発想への可能性をつぶすことを教えられているようなものである。本当に創造的なことが生じてくるときは、そもそもどれが正解かなどということではなく、問題そのものを探し出すことから始めねばならないのである。問題を与えられ、時には多くの解まで与えられ、そこから正解を見つけ出したりするのは、まったく状況を異にするのである。

新しい探索を試みるものは、既存の路線と異なるところに足を踏み入れねばならない。それは危険に満ちており、悪とさえ見なされるであろう。そのような意味での悪への挑戦を敢えてする強さをもち、創造的であることができるであろうか。

子どもの数が減少したことや、受験競争という路線にのることに、大人も子どもも熱心になつている現状においては、子どもは常に正しく、まちがいのないことを、できるだけ早くすることは教えられる。悪への可能性を奪われてしまつていく。このことは学業だけに限らない。生活全般についても言えることである。もちろん、悪は悪であつて、そこには大きい危険性も存在する。しかし、子どもたちに対して、そのような危険性のある道を歩む自由を敢えて与えてこそ、そこから創造性も芽生えてくるのではなからうか。そのような危険度に耐えてゆくことこそ、大人の責任であると思われる。

ところが、大人は子どもを「よい子」に育てる管理をますます強く、巧妙にして、悪の芽を早く摘みとる努力をしていると思いがち、その実は創造性の芽を摘みとつてしまつていようと思われる。大人は子どもの創造力を育てようとするならば、善悪の判断について速断せず、その相対化に耐えてゆく強さをもつことが必要であると思われる。(河合隼雄『日本人とアイデンティティ』)

設問1 右の文章の要旨を、一六〇字以上二〇〇字以内でまとめなさい。

設問2 あなたは子どもや青年への教育において、これからどのようなことが求められると思うか。自分自身の考えを三〇〇字以上四〇〇字以内で述べなさい。